

### 第3回八戸市学校適正配置検討委員会会議録

日 時：平成21年7月14日（火）13:30～15:30

場 所：八戸市庁本館3階 議会第一委員会室

出席者：（委員）目修三、古館良策、今勝康、大島光子、今川一、黒澤宗男、古館義美、  
北向幸吉、岩村隆二、日山祥子（以上10名）

（市教委）松山教育長、芝教育部長、赤坂教育部次長、伊藤教育部次長、  
古川教育総務課長、高野学校教育課長、渡辺学校施設 GL、佐々木学務 GL、  
磯嶋学務 G 主査、町井学務 G 主査（以上10名） 計20名

事務局：ただいまから第3回八戸市学校適正配置検討委員会を開催させていただきます。本日は委員10名全員出席となっております。従いまして、八戸市学校適正配置検討委員会設置要綱第5条第3項の規定によりまして本日の会議は成立となりますことを皆様にご報告させていただきます。

事務局：続きまして、審議に入りますが、案件の一番最初は柏崎小学校建て替え場所の審議となっております。それに伴いまして、本日、事務局側から初めて出席する職員がおりますので紹介させていただきます。

（事務局紹介）

事務局：それでは、ここからは進行を目委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。対象地区の審議の前に、まず初めに、柏崎小学校改築の場所について、事務局からお願いします。

（事務局「柏崎小学校の改築場所について」説明）

事務局：委員の皆様には、第三中学校区の適正配置の検討とは切り離して場所を決めること、教育委員会は青葉二丁目を改築場所として考えていること、以上の2点について御意見を頂きたいと思っております。

委員長：ありがとうございます。まず初めに今の事務局の説明へのご質問から受けたいと思っております。

委員：Is 値 0.3 未満で大地震時に倒壊・崩壊する危険性が高いという説明があったが、0.11 というのはどれだけの地震に耐えられるのか。例えば震度4で崩れるとかそういうのがあるのか。

事務局：0.11 がどれだけの地震で壊れる建物なのかは、具体的な説明ができない性格の数値であります。公的な機関の研究では、八戸地方で今後30年間で震度6以上の地震が起こる確率は、最大見込んで3%、千年に1回であるとのデータもあります。

委員：以前、八戸小学校が焼失した際、3ヶ月でプレハブ校舎を建てたことがある。今回のように崩壊の危険性が高いのであれば、補強工事をするよりもプレハブ校舎でしのぎながら新しい校舎をつくるという意見は地域ではなかったのか。

事務局：先の意見交換会でそうした意見はございました。教育委員会でいろいろ検討した結果、応急的な補強工事を予定している次第です。理由の一つには、プレハブを建てる場合は今の校庭の場所に建てることとなりますが、そのときの学校運営の問題があります。もう一つは、プレハブの経費の問題があります。数年のプレハブのレンタルで何億円にもなります。そうし

たことから、柏崎小学校については、応急的な補強で少しでも耐震性を向上させて安全を確保し、その間に新しい校舎を一日でも早く建設し、子どもたちに安全な学校環境を提供したいと考えています。

委員：補強は今年度でやるとのことだが、新しい校舎を建てるとすれば、期間、費用はどの程度か。

事務局：一般的には、設計に10カ月程度、設計後の工事で最大24カ月と言われていますが、柏崎小学校については、児童の安全確保ということで、一日も早い完成に向けて進めています。また、国の有利な財源を活用する条件として、平成22年度末までの完成の目途ということが示されています。設計・工事期間を平成22年度末完成というのは非常に厳しいスケジュールではありますが、いろいろな工夫をしながらできるのかどうか、懸命に検討をしているところです。事業費については、具体的な設計をしてみないと分かりませんが、新しい学校をつくるにはおおよそ20億円かかると言われていました。

委員：青葉の予定地は学区の端にあり、小中野小学校の学区と接することになる。その場合、学区の編成はどうなるのか。

事務局：今回は柏崎小学校の改築を最優先するというので、学区については、柏崎小学校の属する第三中学校区の地域意見交換会等を経た後に、検討していただくことも考えております。

委員：聞くところでは、県立の学校では30年で建替えるということだが、柏崎小学校は40年は経っています。一番安全の配慮が必要な小学生を、40年も前の建物で、地盤沈下も激しいところにおくのはよくないと思う。いろいろな都合があるかもしれないが、かつての繁華街に住民は少なくなっており、生徒のことを考えればやはり青葉の方がいいと思う。また、プレハブは、夏は暑くて冬は寒く、生徒にとっては劣悪な環境である。小学校は通常40年も持たせるものか。

事務局：学校建設にあたっては国からの補助金を財源の一部に充てていますが、補助の条件では耐用年数50年、コンクリートでは60年という制限があり、今は緩和されてきていますが、今までの例では、それ以前に壊すと補助金の返還もあり得ます。

委員：地盤沈下は地下水が原因なのか。

事務局：現在地の柏崎二丁目は、もともと堤があったところを埋め立てて土地を造って学校が建っています。このことも原因となっているかと思えます。

委員：市民の意見の中には、国道45号線を越える歩道橋の整備を求める声があったが、既に館花下交差点のところにあるのではないかと。別のところに必要ということか。

事務局：詳細を確認しているわけではないのですが、おそらく予定地に近いところに歩道橋が欲しいということであったかと思えます。

委員長：歩道橋はよいようで本当はあまりよくないと思います。私はむしろ信号等を調整したほうがよいと思います。冬は歩道橋を上がるのがかえって危ないという面もあります。

委員長：耐震診断の結果で「危険である」というシグナルが出ているので、早急に改築が必要です。これは時間との勝負であり、大きな地震が来ると大変なことになるので、是非、急いで改築の方向で進めていただきたいと思います。新聞等によりますと、確かにいろいろな意見があると思いますが、それこそ40年も経つと、さうとう地域の感情もあろうかと思えます。そこで、検討委員会としては、教育委員会で十分に意見を集約しているものと考え、改築場所については教育委員会に一任することとしたいと思えます。これを検討委員会の結論とした

いと思いますがいかがでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。今回の審議は前回に引き続きまして下長中学校地区、北稜中学校地区となりますが、審議に入る前に、前回の会議の内容を確認したいと思います。事務局側で、会議録要旨として整理していただきましたので説明をお願いいたします。

(事務局「会議録要旨」説明)

委員長：ありがとうございました。ただいまの事務局の説明につきましてご意見、ご質問はございますか。前回の会議録要旨としてはこのような内容でよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それでは続けて審議に入りたいと思いますが、その前に、私のほうから議論の進め方について提案したいと思います。前回の議事録を見るといろいろな問題がありますが、どうも議論が堂々巡りをしているような感じを受けております。委員から、何かの視点を定めないとなかなか議論が進まないというご発言もございました。また、今回は下長中学校地区・北稜中学校地区ですが、それ以外の学区についても同じような視点で見ていく必要があるのではないかと考えます。まずこの委員会で第一要素として生徒数・学級数を基にした学校規模を第一に押さえるべきではないでしょうか。小学校から大学まで学校教育の目標と言いますと、やはり自立した社会人の養成だと私は考えます。そういう意味では小学校中学校は出発点です。ある程度の集団の中で自分を形成していくことが非常に重要な視点であると考えます。もちろんこれだけで決定するというわけではなく、まずこの点を抑えておいて、その学校が抱える特別な問題を検討していけばよいのではないのでしょうか。2点目は、学級を存続するのに最低限1学級何名いれば存続できるのか、この点につきまして委員の共通理解をつくっておき、それからはずれたところでいろいろな状況で勘案していくという、このような議論の進め方を考えています。この点につきまして、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

委員：美保野中学校地区の地域意見交換会開催報告の中に、宇都宮市の事例がある。その話を聞いてから議論に進みたいのだが、この時の状況について聞かせてほしい。

事務局：今年の3月に宇都宮市でお聞きしたことを地域意見交換会の中でご紹介したものです。宇都宮市の取組みで、平成16年頃、適正規模についての議論が行われました。その中で、市の東西に一つずつ複式校があり、これをどうするかという議論になりました。学校を是非残してほしいと言う声が多い地域だったこともあり、そこでいきなり存続か否かを決めるのではなく、小規模特認校という制度を用いてそこに子どもを集めることができないかということになりました。学校で特色ある教育を展開し、この学校では、コミュニケーションに特化した教育ですが、全市的にその学校に児童を募集し、5年間やって複式が解消されれば存続しましょう、だめであれば隣接する学校と統合しましょうということになりました。3月に宇都宮市から聞いたところでは、5年後である平成21年度、複式が解消される見込みだということでした。美保野中学校地区の意見交換会で、学校を存続する方法がないかという質問に対して答えたのがこの宇都宮市の例です。

委員長：宇都宮市の例は大変参考になると思います。宇都宮市は八戸市と比べて地域的にどうなのでしょう。交通の便とか通学の状況はどうでしょうか。その辺の情報はありますか。

事務局：道路事情までの詳しい情報はありませんが、ちなみに八戸市の面積は305平方キロメートル、

宇都宮市は416平方キロメートルとなっております。面積的には宇都宮市のほうが大きいです。

委員：話を進める上で、いい悪いは別にして、小学校中学校は何名以上で何クラスとか、人数の目安をつけた上で話したほうがいいと思う。全く基準がないといいも悪いも出てこない。そのあたりはある程度意見統一をしておいたほうがいいと思う。

委員長：小学校・中学校の生徒数、学級数について、一応基準となる目安を検討委員会で押さえておきたいと思います。どなたかご意見のある方はいらっしゃいますか。

委員：八戸市では2クラスになるには何名以上あればいいのか。

事務局：41名いれば2クラスになります。また、小学校1、2年生は県により33名の学級編制を行っています。

委員長：そうすると、小学校は1学級20名以上ということになるのでしょうか。前回の委員の意見にもあったように1学年1学級以上ということではどうでしょうか。中学校も基本的には1学級20名以上、ただし1学年2学級以上は必要だと思いますが、それを一つの基準としてよろしいでしょうか。

委員：1クラス20名が適正かどうか、もう少し議論したほうがいいと思う。

委員：小学校と中学校では1クラスの人数は違うほうがいいと思う。中学校は30名とか28名とかがいいのではないか。

委員長：中学校の学級編制も中学校と同じか。

事務局：同じです。41名いれば2クラスになります。また、中学校1年生は33名の学級編制を行っています。

(委員から中学校30名くらいという案が出る)

委員長：中学校は1クラス30名以上、一応それを基準として考えていくということではよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：そうしますと中学校でいえば、6年後においても下長中・北稜中も(1クラス30名で1学年2学級以上とした場合の)180人という基準を満たしており問題なく、小学校でも対象地区の小学校は(1クラス20名で1学年1学級以上とした場合の)120名を大きく超えているので学校規模という視点では問題ありません。ただその学校が置かれている状況で学区の見直しなどは将来、議論になるかと思います。なお、日計ヶ丘小学校については、前回の会議でも問題となりましたが、6年後の推計人数に期待して、現在はそのままとしたいと思います。それぞれの地区について、前日も議論がありましたが、ご意見はございますか。

委員：歴史的な背景もあるし、学級数評価にも適合しているので、今のところはこの地区は手をつけなくてもいいと思う。

委員長：それでは下長中学校地区、北稜中学校地区については、原則として現状のままでいいということではよろしいでしょうか。学区外通学については状況を見て住民個々の都合を聞いて対応してあげればいいと思います。

(委員異議なし)

委員長：それでは下長中学校地区・北稜中学校地区については現状維持とし、学区外基準についてはできるだけ個々の要望が通るようにしてほしいとすることで、この地域の結論としたいと思います。

います。意見については事務局でまとめてください。

委員長：それでは、続けて会議を進めさせていただきます。美保野中学校地区に入るわけですが、審議に入る前に、事務局から対象地区の説明をお願いいたします。

(事務局「美保野中学校地区のまとめ」説明)

委員長：ありがとうございます。ただいまの説明についてご質問があればお願いいたします。

(特に質問なし)

委員長：それでは審議に入りたいと思います。先ほどの基準からいくと、学校規模だけで言えば変更が必要であるとなりますが、ご覧になった配付資料を含めて委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

委員：意見交換会や事前打ち合わせについてはほとんど保護者の方々の意見だと思うが、実際に学校に通う児童生徒の意見は集約しているのか。複式学級について、部活動についてどう考えているかなど、生徒との対話はしているのか。

事務局：他の中学校地区の意見交換会でも同様のご質問がありましたが、児童生徒から意見をいただくということは今のところ実施しておりません。

委員：親の言う、これまでの生活環境を大事にするということもいいけれども、子どもがあつてこそその学校であることを考えると、子どもの将来を考えて、子どもの意見も尊重することが大事だと思った。

委員：増田小の統合では、学校を残したいと言うのは、実際に生徒を持たない地元の長老の方々だった。子どもを持つ親が、今ここで統合しないと転校させると言われたので、地元の方々も渋々従ったという経緯があった。学校を中心にして集まるということも捨てがたいことだが、子どもの教育を考えると、やはり大規模校に通わせて、切磋琢磨させて勉強させたい、いろいろな部活動を経験させたいと思う。

委員：この美保野地域は、歴史を見ても開拓した人たちの苦労がありありと分かる。絶対なくしてはならないという地域の方々の意見があるが、子どもの教育的環境を考えると、集団の中で育てるとなれば、もう少し大きな規模の学校で勉強させるというのが将来にわたって効果があることだと思う。また、政治的な絡みで、現在の調整区域が解けて家が建てられるようになれば、すぐ家が建って子どもの数が増えるかといえばそれも甚だ疑問に感じる。八戸大学・八戸短期大学・八戸工業大学と教育的な環境はいいと思う。

委員：この学区に住んでいながら他の学校へ通う子どももいる。逆に、登校拒否やいじめなど市内の学校で対応できないという子どもたちが、美保野のような学校に通わせたいと言っている親もいるというようなことも聞いている。そういうニーズを確保するためにもやはり統合を考えるのがいいと思う。どうしても残したいという場合は、やはり宇都宮市の事例のように八戸もそれにならなくてもいいかと思う。やはりこのままだと、残すとなれば特別な形で残す、統合するとなれば町畑小学校との統合が考えられると思う。

委員：中学校で数学と英語の先生がいないというのは致命的である。親切に教えてくれるということもあるが、それにも限界がある。子どもたちはほのぼのとしているが、その子たちが実際に高校へ進学した時に、コミュニケーション能力、人に慣れていないというところからくるストレスがあるのかなと思う。まちの学校でいじめられて美保野のおばさんに癒されるという話もあるようだが、教育的環境を整備することを考えれば、やはり白銀南や町畑に統合して、

市営バス代を補助して通学の配慮ができないものか。階上で南部バスを利用してそのようなことをやっているというのは聞いたことがある。

事務局：教科の先生の話すれば、今年度は受験科目 5 教科の先生は揃っています。

委員：美保野小学校の児童数は 7 人であるが、学区外への通学者も相当数いる。小学校を存続させたいという地域の想いがあるならば、まず、この学区外通学をなくす努力をする必要があると思う。学区外通学にはそれぞれ理由があると思うが、正当な理由以外で通わせている可能性もあるかも知れない。それを解決せずして存続ばかりを訴えるのはどうかと思う。

委員長：少し整理しますと、まず学区全体でどう考えるかという意見があります。中学校はある程度大人になっているので統合してもいいという意見、それでは小学校はどうするかという問題があります。小中一貫のような特別な体制をとって、教育環境を P R して、特色を出して存続させるといったようなこともあるかと思えます。もっと特化して、いじめや環境に適應できない子どもたちのニーズという社会的なケアの話もありました。

委員：現在、八戸市内の不登校者数のデータはあるのか。

事務局：今はデータはありませんが、八戸市は全国の水準よりは高いです。そういう意味では小学校も中学校も他の学区から入っている場合もあります。

委員：他地区の意見交換会で小規模校の存続を訴えた保護者がいたが、その子どもは学区外通学している。そういうケースがあるのではないか。

委員：県下で廃校になる基準というものがあるか。1 人でもいれば廃校にならないのか。

事務局：各自治体の考え方によるので、人数の基準はありません。

委員：美保野中学校が何年後かに生徒数がゼロになるが、それでも中学校は存続するのか。

事務局：資料にもありますが、推計でいきますと、中学校は平成 25 年度には生徒数がゼロになります。制度上は休校という制度がありますので、学校は存続できます。

委員長：小学校と中学校が独立しているとそういう問題がはっきりと形に出てきます。小中一貫校であればそのような問題は見えにくくなります。ですから、小学校と中学校を分けたまま考えるのであれば、中学校は考える必要があると思えます。

委員：人数が少ないから小中一貫教育というのは、本来の目的とはかけ離れていると思う。人数が少ないというのは、本来は子どもの成長上良くない。子どもの能力を伸ばしてあげたいときは、保護者が子どもを学区外通学させる。そこに一番の問題があると思う。教育委員会からも、何人以上の学校はどうするなどの方針が示されないため、ここではいい点、悪い点の議論にしかならないと思う。

委員：教育委員会からも具体的な人数の方向性は出せないものか。

委員長：今までの経緯からみると難しいと思えます。

事務局：基準の話ですが、とある町では学校選択性をとっている場合に、人数が減った場合に何人以下になった場合は廃校になると規約の中に載せています。その為、人数が少なくなった場合には廃校になります。一つの方法として、そのような考え方をしているところがあるということをお知らせいたします。

委員：美保野中学校は、今まで何年間も 10 人前後の生徒で続いてきた。それでも続いているということは、高校への進学率は大規模校と同じようなレベルになっているのか。

事務局：美保野に限って言えば、人数が少ないからといって特に成績が悪いというわけではありませ

ん。むしろ成績の良い子どももいます。

委員：そうすると、保護者にしてみれば、少ない人数でも手厚く見ていただいて、よく育っているということになってるのだろう。

事務局：データは無いのですが、問題になっているのは人数の少ない中学校から高校に行ったときにどのように適応して育っていくかだと思います。高校へ行って環境にうまく適応できればいいのですが、そのところが心配に思うところはあります。

委員：ある高校で小規模校の中学校から来た生徒がいたが、人数に圧倒されて教室に入ることができず、別室登校というのがあって、そこで面倒を見ていた。先生方も空き時間に行って面倒を見ていた。何とか進級させて2年生になって教室に入るようになった。本人の話では、人間が怖いそうである。小規模校では、仲良しクラブのまま9年間全部顔見知りなわけで、それが40分の1もしくは100分の1に入ったときにいたたまれなかった。その子は修学旅行にも行けないと思っていたが、最終的には、行くことができた。帰ってくると慣れたようである。成績はそこそこだったが、きちんと卒業して大学に行った。私自身が心配しているのは、やはり過少規模から大規模校に行った時に、社会性が未熟なままで行くのではということである。

委員長：そろそろ時間となりましたが、やはり美保野のような地区は少し慎重に審議していきたいと思えます。それから、ここは議論としていろいろな可能性が出てきますので、委員の皆様におかれましては、次の委員会までに、学校を残すとなればどのような方法があるか、ここで決めることはできないと思えますが、並列でいろいろな可能性を検討してもらうこととなりますので、その辺をご検討いただきたいと思えます。そういうことで、美保野中学校地区については次回への継続審議といたします。どうもありがとうございました。それでは事務局へお返しします。

事務局：それでは最後に次回委員会の日程を決めさせていただきたいと思えます。大変恐縮ではございますが事務局の原案として8月19日(水)午後1時30分からとしましたが委員の皆様ご都合が悪い方いらっしゃいますでしょうか。

(委員異議なし)

事務局：では次回は8月19日(水)午後1時30分から午後3時30分まで、場所は同じくここで開催したいと思います。それでは本日はこれもちまして終了といたします。ありがとうございました。

以上